

千波湖環境学習会を開催しました

当協会は、水戸市との協働事業として、体験しながら環境問題について考える「千波湖環境学習会」を、月1回のペースで開催しております。

7回目の10月19日は、「地球温暖化と植物の関係を調べよう」をテーマに、水戸地方気象台の滝沢勝彦氏を講師に迎え実施しました。

最初に、水戸地方気象台の業務について説明を受け、実際の測定に使用する雨量計の計測の仕方を学びました。また、地球温暖化のしくみや水戸市の気温や降水量の変化をパネルを見ながら勉強しました。温暖化の影響で、①気温は年々上昇している②降水量は減少している③桜の開花も早まっており、子供たちが大人になる頃は、卒業式頃になってしまうかもしれないとのことでした。

その後、千波公園斜面林に生育している植物の観察に出かけました。参加者は小さな草花を見つけると、講師の説明を熱心に聞いていました。また、千波湖畔では、ビオトープに植えられている水生植物の説明や、外来種のメリケンカルカヤが温暖化の影響で北上して来ていることを学びました。



【温暖化について講義】



【斜面林の植物観察】



【サケの遡上の講義】



【サケの産卵活動を観察】

11月16日は、「桜川に遡上するサケの産卵を観察しよう」をテーマに、茨城生物の会の荻沼正和氏を講師に迎え開催しました。

初めに、桜川や逆川に遡上するサケの話を聞きました。現在までの遡上数は約20匹で、昨年度の1/10だそうです。異常気象や水温上昇などの温暖化現象に影響されているのではないかとのことでした。

その後、1.6 km先の美都里橋までサケに関するクイズをしながら歩き、遡上したサケの産卵活動の様子を観察しました。参加した子供たちは、橋の上から産卵床を掘るサケの姿や、産卵床に近づく他のサケを追い払う姿を見て、大変満足していました。

今後のは、12月7日に、「千波湖の湧水と歴史を探ろう」、1月18日に、「千波湖の渡り鳥を調べよう」、2月15日に、「桜川の卵から孵化したサケの稚魚を放流しよう」をテーマに実施する予定です。また、参加者にはこの

事業にご協力いただける会員事業所の皆様から、飲み物や文具等のプレゼントも予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。